

## 中学・高校部活動におけるアンサンブル練習法の検討

### — Dickinson & McIntyre のチームワークモデルに基づいて —

教育デザインコース 音楽領域

井辻 冨聡

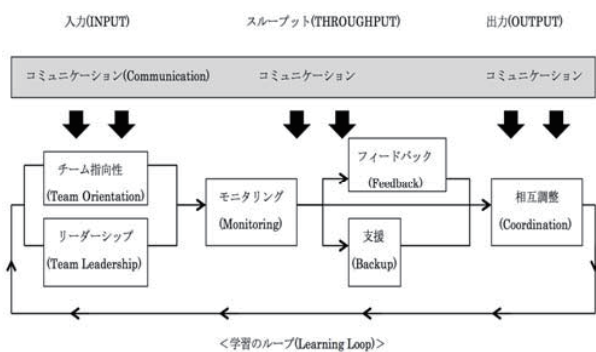
#### 1. 研究の目的

中学・高校の音楽系部活動（オーケストラ・吹奏楽）に焦点を当て、練習において生徒同士の積極的な関わり合いが、演奏への意識にどのように影響を与えるか、Dickinson & McIntyre のチームワークモデルに基づいたアンサンブル練習法で検証する。

#### 2. 研究方法・経過

##### (1) 先行研究

Dickinson & McIntyre (1997) は従来の研究をふまえ、7つの構成要素（コミュニケーション、チーム指向性、リーダーシップ、モニタリング、フィードバック、支援、相互調整）からなるチームワークモデルを作成し（図1）、チームワークとしてどのように機能するのかを示している。



(図1) チームワークモデル (1997)

##### (2) 実践観察

2015年8月に実施した教育インターンで、私立中学・高等学校のオーケストラ部ヴァイオリン3パートの練習を観察し、上述の構成要素に当てはめた。

- ①一人ひとりに丁寧に指導を行い、演奏能力（音程）は個人単位で改善。⇒【モニタリング、リーダーシップ】
- ②高校生が中学生の間に入り練習を行い、アドバイス。⇒【支援】

- ③全員が同じレベルに到達するまで練習、メンバーとリーダーの会話を中心。⇒【フィードバック】

##### (3) 研究の基本的方向性

「モニタリング」「フィードバック」「支援」の3要素が特に重要な意味を持つと仮定し、それぞれの構成要素に、具体的行動を当てはめた。

【モニタリング】パート練習においてメンバー一人ずつ順番に弾いたり、分奏を行う。

【フィードバック】メンバー同士で話し合いができる環境を作る。良い案を提示する姿勢を作る。

【支援】学び合う時間を作る。先輩が後輩の支援をする。

##### (4) 実践検証

3要素に注目し、段階的に練習を行うと、生徒の演奏への意識や演奏技術にどのような変化が見られるのか、中学校での実験を予定している。

#### 3. 今後の研究計画

- (1) 観察及び生徒への質問紙調査
- (2) 演奏能力の評価方法

#### 4. 予想される結論

モニタリング・フィードバック・支援の3つの性質を取り入れ、段階的な練習を行う。それによりメンバー間の理解が進み、効率よく練習できるようになることで、音楽能力が高まることが期待される。

参考文献：T.L.Dickinson & R.M.McIntyre (1997). A conceptual framework for teamwork measurement. In M.T.Brannick, E.Salas,& C.Prince (Eds.) ,*Team performance assessment and measurement : Theory,methods,and applications*. Mahwah,NJ : Lawrence Erlbaum Associates. pp.19-43.